救急ガイドブック

【高齢者福祉施設編】



豊橋市マスコットキャラクター

「トヨッキー」



豊橋市消防本部 マスコットキャラクター

「ヒケッシー|

豊橋市消防本部 消防救急課

豊橋市役所ホームページアドレス http://www.city.toyohashi.lg.jp

令和2年6月作成

t (U

1	はじめに	····· P 1
2	施設内での予防救急	P 2
3	いざという時の備え	····· P 4
4	救急車の要請	····· P 7
5	心肺蘇生の方法	P9
6	救急連絡シート	P10



いつまでもいつまでも「元気」で 「安全・安心」に暮らせるように・・・

1 はじめに

近年、高齢化社会の進展により、救急出動件数は年々 増加し、豊橋市においても増加の一途をたどっています。



特に高齢者の方の搬送件数が増えています

また、高齢者福祉施設からの救急要請も増加して、<u>少しの注意や事前対策</u>により未然に防げたかもしれない事例も多く発生しています。

この「救急ガイドブック」は、病気やケガを予防するポイント、また、もしもの時の対応を円滑に行えるように作成したものであり、施設の皆さまと救急隊が理解を深め、より適切な救急対応ができるように、そして**入所者の方々がいつまでも元気で安全・安心に暮らせるよう**にご活用いただければと考えています。

2 施設内での予防救急

1 手洗い・マスク着用の励行

現在の新型コロナウイルスやその他多くの感染症が発生、拡大しないように、職員の皆様、来所者だけでなく、入所者全員の手洗いや手指の消毒、必要に応じたマスクの着用などを徹底してください。



また、感染経路(接触・飛沫・空気など)や嘔吐物などの正しい処理の方法や感染予防対策を知ることで、施設内での二次感染を防げます。 感染症に対しての正しい知識を身に付けてください。

2 転倒·転落防止

高齢者は、普段生活している慣れた場所でも、



小さな段差でつまずき転倒し、骨折を伴うような重症となる場合もあります。

施設内の段差や滑りやすい場所などの危険な場所に注意するとともに、整理・整頓を心がけ、廊下や部屋の明るさに配慮することで、転倒などの事故を防ぐことが可能ですので、職員の皆さまで施設内の確認をしてみましょう。

入所者の目線に立つことも必要です。

また、飲み物などがこぼれて、床が濡れている場合、 滑って転倒してしまうことがありますので、できるだけ すみやかに拭き取るように心掛けてください。



3 誤嚥・窒息の予防

脳梗塞や神経疾患のある高齢者は、飲み込みや咳が しにくくなっていることもあり、食物などが気管に入ったり 窒息が生じやすくなっています。



ゼリー、お餅、大きなお肉はもちろん、飲み込みにくいパンなどでも、窒息事 故が起きています。

食べ物を**小さく切って**食べやすい大きさにするだけでなく、<u>ゆっくりと食事</u>に集中できるような環境作りや、<u>食べている途中に話しかけない</u>など、食事の様子を見守り、注意してください。

もしも食事中、<u>むせるなどの症状があった場合は、**食後の容態変化にも十**</u> **分注意**しましょう。 急にぐったりして反応がなくなったという事案も見られます。

4 ヒートショックへの注意

冬季は急激な温度変化による救急事故が増える時期となります。居室だけでなく、施設内の風呂場やトイレ、廊下などの温度にも注意し、**温度変化が少ない環境づくり**を心がけましょう。

5 服薬後にも注意を

薬によっては、<u>服薬後に思った以上にふらついてしまい</u>、ベッドから起き上がる際などに、転倒・転落してしまうことがあります。



処方薬の副作用を確認しておくことも大切です。特に**お薬が替わった時な どは注意**をしてください。

6 熱中症への注意

高齢者は体温調整機能が低下していることも多く、

さらに喉の渇きを感じにくくなっている場合もあります。

暑い時は、必要に応じてエアコンや扇風機などを 利用することで、熱中症を防ぐことが可能です。

屋外では帽子などにより直射日光をさけ、<u>適時、</u> 日陰など涼しい場所で休息しながら移動しましょう。



マスクの着用は、体内に熱がこもりやすく、

喉の渇きが感じづらくなり、リスクが高くなります。

いずれにおいても適切な水分補給が重要となります。



3 いざという時の備え

1 生活状況の記録

職員の皆さまは、入所者の普段の生活状況について、誰よりも把握しています。毎日の状況を記録し、<u>いざという時のために、入所者の状況を把握で</u>

き、医師や救急隊へ**正確な情報を伝える仕組み作り**も重要です。

救急車を要請した際、事前に必要な情報を「救急連絡シート」

<u>(P 1 0 参照) に作成</u>しておくことで、スムーズな情報伝達が

可能となります。



2 かかりつけや協力病院との連絡体制の構築

普段から連絡を密にし、様子が変化した際には 相談や受診ができる体制を構築しておきましょう。

病院を受診する場合は、**症状が悪化する前に**

受診することが大切です。



3 患者等搬送事業者(民間救急)の活用

救急車や救急医療は限りある資源です。緊急を要さない場合は、

施設等の車両や患者等搬送事業者(民間救急)

などの活用にご理解とご協力をお願いします。

- ●緊急性が低いと認められる事例
- ① 寝たきりであるが、人手がないなどの理由の場合
- ②寝台車を利用すれば病院に行ける場合、病院への通院等 豊橋市消防本部が認定している患者等搬送事業者は、次のとおりです。

事業所名	住 所	連絡先		
株式会社 かけはし	曙町字若松25-21	0532-48-1947		
東海交通株式会社	大橋通2丁目101	0532-53-1181		
株式会社 まんとく	池見町35	0532-35-6199		

- ※サービス内容や料金等については、各事業者に直接ご確認ください。
- ※規程に定められた寝台車などを用いて、緊急性のない患者さんの搬送 事業を行っています。

4 緊急かどうか判断に迷う場合

かかりつけ医や協力病院に相談するほか、愛知県救急医療情報センター (0532-63-1133) にも相談することができます。

また、「救急車が必要・・・」と迷った時に活用する「Q助」(全国版救急受診アプリ:総務省消防庁)もご活用ください。

総務省消防庁「Q助」案内サイト



ただし、<u>緊急と判断した場合は、迷わずに119番通報</u>し、救急車の要請をしてください。

5 応急手当の習得と実施

入所者の生命の危険時に最初に気づくのは職員の皆さまです。豊橋市消防本部では、応急手当を学ぶ「各種救命講習」を開催しています。心肺蘇生法、AEDの使い方、窒息への対処法,止血方法など学ぶことができますので定期的に受講しておいてください。

万が一、入所者に応急手当が必要な



時は勇気をもち、できることをやっていただきますようお願いします。

※救命講習の日程等については、豊橋市役所 ホームページの消防救急課をご覧ください。



- ※受講者が10名以上であれば、出張して講習を実施します。
- ※詳しくは、中消防署(52-0119)・南消防署(46-0119)・消防本部 消防救急課(51-3101)までお問い合わせください。

4 救急車の要請

1 施設内での対応

救急車の要請となれば緊急事態です。



- (1) 緊急事態が発生したことを、施設内職員に知らせてください。
- (2) 緊急事態の場所に職員を集め、次の役割を分担してください。
 - ア 119番通報、必要な応急手当の実施
 - イ 関係者への連絡(かかりつけ医、家族)
 - ウ 救急車の誘導、患者さんの場所への案内
 - エ 救急隊へ「何がどのように起こったか」や救急連絡シートでの情報伝達

2 119番涌報

可能なかぎり患者さんの近くから携帯電話で





住所、建物名称、状態を確実に伝えてください。

患者さんの近くから通報することにより、119番の応答職員からの応急手当についてのアドバイス(口頭指導)や現場に急行している救急隊から事前連絡などを受けることができ、容態変化や病院への迅速な搬送につなげることができます

また、携帯電話の<u>ハンズフリー操作(スピーカーホン)を事前に確認し</u>ておくと緊急時に役に立ちます。

※119番通報後、容態変化があったときは再度119番通報してください。

3 協力病院への連絡と搬送病院の確保

あらかじめ搬送先の病院を交渉・確保されている場合は、当該病院への搬送を優先しますが、入所者の病態や状況により緊急を要する場合は、救急隊が別の医療機関を選定する場合があります。

4 施設職員又は家族の同乗

救急搬送する場合は、原則、施設職員やご家族など状況のわかる方の同 乗が必要です。

- (1) 医療機関への申し送りが必要となります。
- (2) 保険証・お薬手帳など持参してください。
- (3) 救急連絡シート・看護記録・介護記録・カルテ等を持参ください。

5 DNAR (蘇生処置しないで) の意思表示

傷病者や家族からDNAR(蘇生処置をしないで)
の<u>意思表示がある場合は、あらかじめ協力病院や</u>
かかりつけ医師にその対応について相談しておいてください。



DNARの意思表示がある場合でも、原則、<u>救急要請があれば救急隊</u>は応急処置を何もしないで病院へ搬送することはできません。

心肺蘇生法などの応急処置を実施し搬送することが、救急隊の業務とされていますので、救急隊の活動にご理解とご協力お願いします。

5 心肺蘇生の手順

1 安全の確認

☆周囲の安全を確認します。



2 反応の確認

☆肩を軽くたたき「大丈夫ですか」「分かりますか」 と呼びかけ、反応や意識の確認をします。

3 助けを呼ぶ

☆大きな声で助けを求めます。協力者に「119番通報」「AED」を依頼します。

4 呼吸の確認

☆胸やお腹に動きがあるか確認します。 動きがある場合でも「普段通りの呼吸か どうか確認します。



5 胸骨圧迫

☆「呼吸がない」または、<u>「普段通りの呼吸」か分からない場合</u>は <u>胸骨圧迫を行います</u>。胸の真ん中を約 5 c m沈むまで 1 分間に 100~120 回のリズムで絶え間なく圧迫します。



約5 c m沈むまで 100~120 回/分のリズム

6 人工呼吸とAEDの使用

- ☆人工呼吸が分かる場合、胸骨圧迫30回×人工呼吸2回 を繰り返し行います。
- ☆ A E Dが届いたら、電源を入れ、音声の指示に 従い操作します。

救急連絡シート

★情報を記入し、救急隊に渡してください							記入日	∃	年	月	日
ふりがな											
氏 名											
生年月日	治・大	正・明	召和		年	月	日	(才)	
住 所	施設り 住んで										
日常生活	舌	自立	・伝い歩	き・歩	行器・	車標	奇子・ジ	寝たきり	·会話	(可•不	可)
今かかっている病気		脳梗塞・脳出血・心筋梗塞・狭心症・高血圧・心不全・呼吸不全 肺炎・喘息・糖尿病・肝疾患・腎疾患・認知症・肝炎(B型・ C型) 癌()→告知(有・無) 麻痺/後遺症(有・無) その他:あれば記入してください									
かかりつけ病院	・医師名										
常用している薬品名		降圧剤・糖尿病薬・インスリン・血液サラサラ 【お薬手帳を持参してください】 その他:あれば記入してください									
アレルギ	_	あり(薬•食/	で物)	・なし
			緊 急	時道	車 絡	先	等				
氏 名		続柄	連	絡先				白	E所		
その他(伝えた	-いこと)										
DNAR											
話し合い	等										
最後の食事の	の時間			F]	日		時ころ	5		
★ 発生時の いつ、どこで 何をしてる時、と 普段とどう違	で、 どうなった										

- ※ 太枠内は事前に記入し、色付き欄は、救急要請時に記入をしてください。
- ・この救急連絡シートは、救急業務以外には使用しません。
- ・救急搬送終了後、同乗の施設関係者に返却、又は家族・搬送先医療機関に渡します。

救急連絡シート

記入例

★情報を記入し、救急隊に渡してください

記入日 令和 〇年 〇月 〇日

ふりがな しょうぼう たろう 氏 名 消防 太郎		変更した場合、							
		太郎		※救急連絡シートの原本及 日付の変更を び記入例は、豊橋市役所 してください					
生年月日	明	明治 ・ 大正 ・ 昭		ホームペ ロードで	_	からダウン す。 検	(才)		
住 所 施設以外に 豊			豊橋市(索欄に救急連絡シートと入 力し、抽出してください。					
日常生	 活	自立・伝い歩き・歩行器・重椅子・寝たきり・会議(河・不可)							
現病	脳梗塞・脳出血・心筋梗塞・狭心症・高血圧・心不全・呼吸不全 肺炎・喘息・糖尿病・肝疾患・腎疾患・認知症・肝炎 (B型・C型) 癌 ()→告知 (有・無) 麻痺/後遺症 (有・無)								
既 往	歴	l.— ,	その他:あれば記入してください 内容は常に最新のものになるよう適 宜見直しを行って下さい。						
かかりつけ病院	:•医師名	EXECUTION OF							
常用している	薬品名	降圧剤・糖尿病薬・インスリシ・血液サラサラ 【お薬手帳を持参してください】 その他:あれば記入してください							
アレルギ	あり(薬・食べ物)・なり) (な)			
	緊急時連絡先等								
氏名	ጟ	続柄	連	絡先		住	所		
消防 次	?郎	子	090-01	19-0119		東京都〇〇区〇	○○丁目○番地		
消防 花	子	妹	080-11	90-1190		豊橋市○○)町()番地		
その他(伝えたいこと) DNARの 話し合い等									

最後の食事の時間	月 日 時ごろ
★ 発生時の状況 いつ、どこで、 何をしてる時、どうなった 普段とどう違うのか	救急要請時に 記入して下さい。

- ※ 太枠内は事前に記入し、色付き欄は、救急要請時に記入をしてください。
- ・この救急連絡シートは、救急業務以外には使用しません。
- ・救急搬送終了後、同乗の施設関係者に返却、又は家族・搬送先医療機関に渡します。